

市農協が新米贈る

『希望の家』など市内4施設へ



山本組合長が「おいしいお米を食べて元気になって」と、新米を手渡した。

おいしい新米をみんなに食べてもらう——と八月六日、南園市農協（山本通夫組合長）が、『土佐希望の家』など、市内の四施設に新米をプレゼントしました。

これは、山本組合長らが「米の消費拡大とともに、地域の福祉にも役立つことを」と、今年初めて、宣伝費の一部を削り、百十五*の新米を贈ることになったもの。四つの施設は、このほか「土佐清風園」、県立希望ヶ丘学園*、「県立南海学園」。

贈られた新米は、四月中旬に植え付け、七月末に刈り取られたは

かりの、ごくわせ品種フジヒカリ。午前九時半、最初の訪問先である『土佐希望の家』では、山本組合長が「おいしいお米を食べて、

7日には…新米まつり

わせ種の刈り取りも真っ盛りのは八月七日、今年で三回目になる

「新米まつり」市農協主催が、大篠支所西広場で開かれました。

販売された新米は、ごくわせのフジヒカリ五*入りが八百袋。七月末に刈り取られ、ライスセンターで商品化されたばかりのホヤホヤの新米。午前十時の開店と

元気になってください」と、五*入りの袋六つを園の代表に手渡すと、「ありがとう」と言っており、とても喜んでいました。

もに、多くの主婦が訪れ、一袋、二袋と買って行きました。

この即売コーナーのほか、パットライスの実演と無料配布、南園農業改良普及所からは、新米のおいしい炊き方と試食コーナーなども設けられ、訪れた婦人は「やはり新米は、香りもよいおいしい」と、好評でした。



調理場をチエツつする一日指導員

食中毒を防ごう

一日指導員が巡回

全国食品衛生週間中の八月七日、食中毒を予防し、健康で明るい食生活を——と、『南園市食品衛生協会』（野島俊男会長）の主催で「一日食品衛生指導員」の行事が行われました。

まず、市農協所に小笠原市長ら一日指導員に委嘱された市内の各種団体の代表二十人が、白衣にタスキ掛けて集合。野島会長が「それぞれ



おせいの主婦でにぎわった「新米まつり」